

～はばたきコース～

<大賞 1団体>

■ 特定非営利活動法人 西淀川子どもセンター（大阪）／30万円

「子育て短期支援準備事業～親子が安心して地域で生活していくための支援～」

<p>団体概要</p>	<p>1995年よりCAP（子どもへの暴力防止）に取り組んできたメンバーが、2007年に子どもと親のための無料相談室を開設し、2008年に法人格を取得した団体である。</p> <p>子ども自身が自分のことを気軽に話せる場と人を増やすという、地域に根差した子ども支援を目指している。電話・来所相談、一時介入など子どもの緊急避難場所、子どもの学び直し支援、居場所づくり、夜をひとりで過ごす子どもへの夜間支援活動、子どもを支援する大人の養成事業など、地域で多岐にわたる活動を行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、虐待通報などで要観察状態の親子、ひとり親家庭の親の就職活動、親の病気や事故、疲労や不和などでの養育困難などというような場合の「子育て短期保護支援」を立ち上げるための事業である。</p> <p>まずは準備事業として、勉強会と研修会を5回実施し、虐待対応などの知識を学んで、スタッフのスキルアップを図ると同時に、地域でのニーズと可能性、関係機関との協働に向けた体制内容をディスカッションし、共有して行動につなげていく。その後、モデル実習として、10日以内の支援を2回行うことを目標に、見守り事例の親子への相談対応や学習支援、一時預かりなど、具体的ニーズを実践する。その経過や内容を振り返り、専門機関に随時相談・連携しながら取り組む。</p>
<p>講評</p>	<p>本事業は、地域で孤立している親子という支援の切実度が高い社会課題に特化して、綿密に計画された実践的な事業を組み立てている点が、先進性・創意工夫・社会性・資金計画の妥当性の面で大きく評価された。また、地域の子育て支援事業に長く携わった経験をもとに、親の支援にも事業を広げて、社会的な課題解決に取り組もうとしている点が、新規チャレンジ性でも評価された。行政だけでなく、民生児童委員や社会福祉協議会などの地域の福祉資源、先行するNPO法人などとの連携・協力関係があり、共感と市民参加・実現性も非常に高い。</p> <p>子育て短期支援実施に向けた準備事業の段階ではあるが、とても能動的で挑戦的な事業であり、社会的課題に光をあてる本アワードの主旨に合致しており、大賞団体としてふさわしい内容である。本アワードの助成を受けて、事業が本格始動し、虐待防止や子どもの貧困対策のモデルケースとして、はばたくことを期待したい。</p>

<優秀賞 2団体>

■ 特定非営利活動法人 京都子育てネットワーク（京都）／30万円

「つながり・広げよう、子育ての地域資源～より豊かな相互支援を目指して～」

<p>団体概要</p>	<p>1997年の「子育てサークル代表者会議」で15団体が結集したことをきっかけに任意団体を設立し、2011年に法人格を取得した団体である。孤立しがちな子育て家庭が地域に出るきっかけとなる居場所づくり、関係づくり、環境づくりを行っている。</p> <p>子育て広場事業を中心に、ママ講師バンクなどの子育て相互支援に関わる仲間づくり・社会参画のコーディネート事業、子育てサークル交流会などの団体のネットワーク・コンサルテーション事業など、幅広い子育て支援事業を展開している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>誰もが安心して遊びに行けるはずのつどいの広場などに、様々な理由で行きづらさを抱える親子がいる。その当事者グループ・NPOなどと、広場などの地域子育て拠点で交流し、安心して仲間づくりができる環境づくりを進める。また、父母が支援の受け手にとどまらず、地域で力を発揮する事例を子育て拠点からヒアリングしてまとめ、発信することで循環型の子育て相互支援を広める事業である。</p> <p>具体的には、①つどいの広場を対象に交流・現場施設の見学と父母の力が発揮されている事例収集、②つどいの広場と当事者グループ・NPOとの研究交流会と共感の輪を広げる実践事例収集、③ブログによる事例の紹介、④イベントブースの出展によるつどいの広場の紹介、⑤リーフレット広報、と段階を踏んだ事業を行う。</p>
<p>講評</p>	<p>本事業は、これまでに同団体が構築しつつある地域子育て拠点の支援者ネットワークと、当事者・NPOのネットワークを基礎にして、事業プランがなされており、高い実現性と創意工夫がある。そして、それぞれの団体が求めているつながりをマッチングさせることは、双方ともに意義がある事業であり、社会性も高いといえる。</p> <p>また、つどいの広場を運営する中から見えた課題の克服を目的としたもので、それを一団体内にとどめない事業の組み立て方や内容は、ネットワーク組織としての特色が如実に表れている。</p> <p>今まで交流のなかった広場との直接交流やヒアリングをすることで、次年度の自主的な参加へのステップにつなぐことも想定していることから、本アワードの助成をてこに、今後も継続・発展する一助となることを期待したい。</p>

■ 特定非営利活動法人 神戸定住外国人支援センター（兵庫）／30万円  
「外国にルーツを持つ子どもと高齢者の多文化共生“ふるさと”づくり」

<p>団体概要</p>	<p>1995年の阪神・淡路大震災の外国人支援を契機に設立した「被災ベトナム人救援連絡会」と「兵庫県定住外国人生活支援センター」が、日常の外国人支援に取り組むことを目的に、1997年に統合して設立した。1999年からは震災によって郊外に居住せざるを得なくなり孤立した在日コリアン高齢者の昼食会活動に取り組み、現在の民族性に配慮した介護事業へと繋がっていった。</p> <p>他にも、日本語学習支援活動、外国にルーツを持つ子どもの学習支援活動、中国残留邦人帰国高齢者の居場所づくり、東日本大震災支援活動を実施している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、外国にルーツを持つ子ども達に対する農業体験プログラムの実施により、地域の農業従事者たちとの異世代交流を行うものである。</p> <p>神戸市の中心地域で育つ外国にルーツを持つ子ども達は、帰省できる田舎がなく、自然体験をする場を持つ機会が非常に少ない。また、祖父母が母国にいる子どもも多く、祖父母世代と交流する機会も少ない。一方、神戸市郊外の農業地域では孤立している高齢者がおり、双方の交流の機会をつくることで、高齢者には移住児童の理解を深め、外国にルーツを持つ子どもにはふるさと体験の場をつくる。</p> <p>具体的には、神戸市郊外の農地を借り、地域の農業従事者から指導を受けながら子どもが農業体験をし、講演会で食と農の話聞き、高齢者の知恵や技能を学びながら相互交流をする。</p>
<p>講評</p>	<p>当団体は長年、外国にルーツを持つ人々への支援とエンパワメントに尽力しており、埋もれていた問題を掘り出してきた実績がある。本事業は、都会の子どもと郊外の農業従事者のそれぞれが持つ課題に対して、双方を掛け合わせることで問題解決を図っており、積み重ねてきた活動があったからこそ出来る創意工夫・実現性の高い内容であると評価された。</p> <p>孤立しがちな農村部の高齢者と、外国にルーツを持つ子どもが異世代交流を継続的にすることで、高齢者には移住者への理解と生きがいや楽しみ、子どもには日本の田舎のふるさとの良さを伝えることができる。これは、草の根からできる真の国際交流とも言え、本助成によって活動が広がることを大いに期待したい。</p>